



関西地域の経営者50名が語った苦難を乗り越える秘訣

～ 今、明かされる、あの日、あの時の決断 ～

苦境の長いトンネルを抜けると、そこには、「社員の笑顔」が見えた

苦難を乗り越える秘訣を漢字一字で表すと「人」

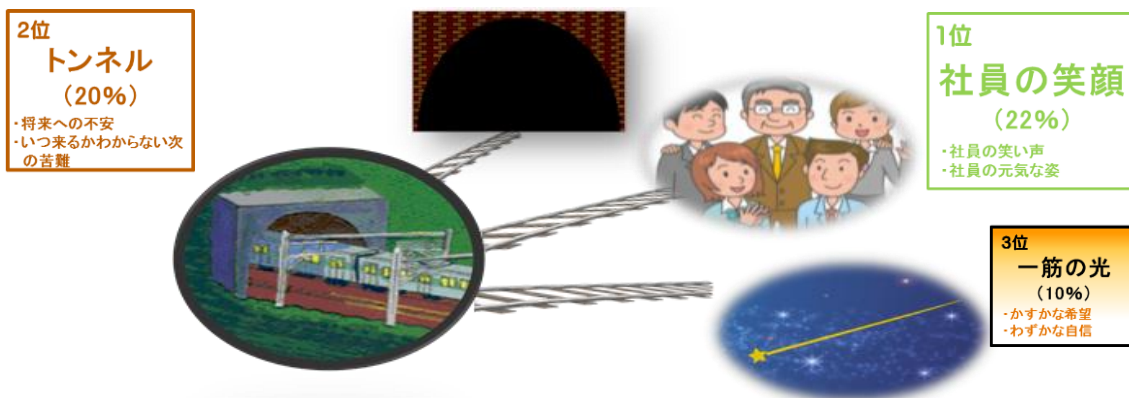
企業(特別)ヒアリングの結果について

近畿財務局では、管内の経済情勢等を把握する一環として、25年3月から6月にかけて、関西地域の経営者50名に苦難を乗り越える秘訣等についてヒアリングを実施しました。

今回、その結果を取りまとめましたので、公表します。

ヒアリング結果の概要は、次のとおりです。

1. 社長在職年数は、10年以上が全体の6割を占め、最長在職年数は、43年となっています。
また、今まで歩んできた人生を「道」に例えて表現をしてもらったところ、苦難を連想させる「山あり谷ありの道」、「いばらの道」が全体の4割を占めました。
2. 最大の苦難の時期については、「平成6年から10年までの間」が、34%でトップ。その要因については、バブル崩壊、リーマンショックなどの「市場等の環境変化」が40%でトップとなり、次に阪神・淡路大震災などの「自然災害」(18%)となっています。
3. 苦境の長いトンネルを抜けて見えたものを景色で表現してもらったところ、1位は、社員の元気な姿が見えたとして「社員の笑顔」(22%)、2位は、将来への不安が拭い去れないとして「トンネル」(20%)、3位は、かすかな希望が見えたとして「一筋の光」(10%)となりました。



4. 苦難を乗り越える秘訣を漢字一字で表現してもらったところ、1位は、「人」(26%)、2位、「夢」(18%)、3位、「和」(14%)となりました。

5. 将来への不安を「これから発症すると怖い会社の病」として表現してもらったところ、1位は、油断や慢心を心配する「慢性疾患」(22%)、2位は、経営者自身のやる気がなくなることを心配する「燃え尽き症候群」(10%)、3位は、社内のコミュニケーション不足を心配する「循環器病」(8%)となりました。

6. 社長の孤独感については、6割以上が「感じない」と回答。「生まれ変わっても社長になりたいか」との質問にも6割以上が「になりたい」と回答されました。

また、経営者の行く手を阻むものについては、約5割近くの方が「自分自身」(46%)と回答。次に、「慣習・規則」(20%)、「環境の変化」(10%)が続きました。

さらに、苦難を乗り越えるために経営者が持っておいた方がよいアイテム(資質)について尋ねたところ、1位は、「あきらめない心」(20%)、2位、「信頼できる相談相手」(14%)、3位、「気持ちの切替え」(12%)となりました。

7. 苦難を乗り越えた社長からの教訓

教訓1 目標を示して一体感を高めろ！

- 目標を示すことにより社員は安心し、一体感が高まる。

教訓2 社員のことを第一に考えろ！

- 気持ちは必ず伝わり、社員のやる気を醸成させる。

教訓3 社長は背中で語れ！

- 必死さが伝わると、社員は必ずついてきてくれる。

教訓4 試練から逃げるな！

- 現状分析をきっちり行えば、打開策が見えてくる。

教訓5 あきらめるな！

- あきらめたら、その時点で終わる。

【お問い合わせ先】財務省近畿財務局

総務部 経済調査課 (地域情報統括P T)

TEL : 06-6949-6377 (花田、谷上)

